

令和3年度第1回 岩見沢市総合教育会議

議 事 録

日 時：令和3年10月27日（水）午前10時開会
場 所：岩見沢市役所 水道庁舎会議室

1. 開会

2. 市長挨拶

○松野市長

おはようございます。今日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。私も大変楽しみにしておりました。良い機会だと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、この総合教育会議でございますが、改正された地方教育行政法が平成27年4月に施行され、岩見沢市は直ちに5月に設置いたしまして、6年目を迎えました。この間、当市の教育、学術、振興に関する総合的な施策の大綱、教育大綱を策定するとともに、皆様といくつかのテーマにつきまして意見交換を積み重ねてきたところでございます。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響は、私達の生活、あるいは生命や身体、健康にとどまらず、日常生活や社会経済活動、さらには、人々の意識や価値観にも大きな影響、変化を与えているところであり、特に、教育と子供たちの生活に大きな影響を与えているのも現実でございます。

目まぐるしいスピードで変化する地域社会の中であって、コロナ禍も相まってさらに不確実な時代を迎えております。市政にとりましても、課題が山積しておりますが、当面する課題にしっかり取り組むとともに、中長期的な視点をしっかり併せ持ちながら、オール岩見沢、チーム岩見沢で、将来を見据えたまち作りとともに教育の振興にも取り組んでいきたいと考えています。

この総合教育会議は、教育委員の皆様との意見交換ができる、先ほど申し上げました貴重な機会でございます。今日は議題を「教育大綱の進捗状況」についてと、さらには「新しい時代に対応できる力の育成」としてGIGAスクールの現状、「育ちと学びを支える教育環境の充実」として、栗沢・北村両地域における小中一貫教育の導入と今後の方向性、さらには、学校における新型コロナウイルス感染対策のなどにつきまして、忌憚のない意見交換をさせていただきたいと考えています。

私は、教育大綱でも掲げておりますが、まちづくりは人づくりからと考えています。質の高い、良い教育環境の充実、さらには、学習活動へ展開していくことで、単に学力の向上だけではなく、様々な課題に挑む、また新たな価値の創造に挑戦する意欲を持った、将来を担う人材、人の宝が育成され、持続可能で魅力あるまちづくりに繋がるものと考えています。

今後におきましても、市長部局と教育委員会との連携を一層強化し、教育大綱に掲げた基本方針、さらには重点項目を踏まえた上で、施策の具体化とその検証をしっかり取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。以上で私からの御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 議事

○事務局

続きまして、次第の議事に移らせていただきます。本日の議事は、岩見沢市教育大綱の進捗といたしまして、教育大綱に定められている施策の中から、3点の施策を取り上げまして、現状や進捗状況などについて、議題とさせていただきます。

初めに、教育大綱の重点項目の1「新しい時代に対応できる力の育成」の施策2「高度なICT社会を担う人材の育成」につきまして、各学校における「GIGAスクールの現状」について議題といたします。

本日の進め方でございますが、初めに三角教育長から、資料についてご説明をいただいた後、松野市長よりご意見をいただきまして、その後、委員の皆様と意見交換をさせていただくという流れで進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、三角教育長からご説明をお願いいたします。

○三角教育長

はい、それではよろしくお願いいたします。GIGAスクールの現状について、まずは端末の整備状況について、1ページをご覧ください。

児童生徒全員に、iPadにキーボード付属したものを配備しております。授業では、カメラ機能を使ってのノートや板書の記録、ロイロノートを使っての交流や意見集約などに用いられ、中には、課外活動でも活用されているところもあります。同時に65インチの大型モニターを教室に配備したことで、活用の有用性が高まっています。このあと実際の活用場面について、動画を見ていただくこととしております。

また、委員会や研究所、学校に、CiscoWebexボードを配備したことで、委員会と学校、研究所とWeb会議が頻繁に行われるようになり、各学校を繋いで、公開研究会や公開授業を開催しているところもあります。また、緊急事態宣言下の中では、東京、京都、愛知、山口、高知など、道外の講師と結んで研修や授業研究を実施している状況です。

2ページの教職員の取り組みについてですが、本市では、授業でのICT活用を想定して、平成29年にICT教育に堪能、あるいは、関心のある20代から40代の教員を中心に、研究サークルを立ち上げて、先行実践しておりました。そのメンバーを母体に、令和2年から研究所にICT活用研究部会を設置し、令和2年2月、3月に各学校の推進者となる教員を対象に導入機器の研修を実施し、それとともに、授業作りの手引を指導室において作成・配布し、公開授業を実施してきています。

また、令和2年8月、11月、1月の3回にわたって、授業での活用に向けて全教職員を対象に、能力別の研修を実施しており、97%の教員が参加しております。

ここまでを状況説明とさせていただいて、この後4分ほどですが、実際に活用している様子を撮影した動画を見ていただきたいと思います。

(動画を視聴)

はい、ありがとうございました。

次に、活用状況の3ページ、4ページになります。まず、3ページですが、今年度の全国学力学習調査の中でも、今の小学6年と中学3年の質問紙調査から、5年生までの授業での活用が「ほぼ毎日」が小学校35.3%、中学校7.9%であり、小学校が全国より20ポイント以上高い状況で、中学校がわずかに上回っているという状況となっております。これについては、先ほどの研究サークルに小学校の先生方が多数参加していたことが、影響しているのではないかと考えています。

4ページ目ですが、今年5月の時点ということで、現在の6年生、中学3年生の時点での活用状況について、「ほぼ毎日」が小学校45.6%、中学校45%、それぞれ全国より35ポイント以上高くなっています。なお、「ICTが勉強の役に立つ」と思う児童生徒は、9割を超えている状況です。

5ページになりますが、各種研修の実施後、今年の9月時点での授業での活用状況については、「毎時間活用」が小学校50%から中学校72%、学年が上がるにつれて活用頻度が高くなっている状況となっており、小学校では、低学年で「1日1～2回程度」が多い状況となっております。中学校では、教科によって頻度が変わり、また、特別支援学級での活用が少ない状況がありますが、これについては、今後、実践交流が深まっていく中で、活用の頻度が上がっていくかと考えています。

6 ページ、コロナ感染による学級閉鎖時や不登校の子供への活用もそれぞれの学校で実施しているところです。

7 ページですが、今後の取り組みについて、デジタル教科書が導入された際の効果的な活用ということで、現在モデル校を指定して実証検証中であります。

以上で私からの説明は終わります。

○事務局

ありがとうございました。それではまず、松野市長からご意見をいただきまして、意見交換としたいと思います。

○松野市長

私から講評するわけではありませんので、思ったことを素直に申し上げますが、思いの外、活用していただいているなどというのが率直な実感です。

最初の説明にありました、中学校の使用頻度が低い、あるいは、活用方法に課題があるということでしたが、もう既に50%以上ということで、全国を大きく上回る活用をされていることですので、大変素晴らしい成果だと思っています。

また、子供たちも、動画の最初は小学5年生でしたが、小学5年であのように日常的にタブレットが使えるのかと、自分のタブレットの使い方が恥ずかしくなるぐらいでした。この場の中でも、あれだけ使える人は、いないのではないのでしょうか。

これからの子供たちは、あれがもう標準になりますので、できるだけ広くそういう機会を作っていただきたいということと、それからコロナ禍ということで、特にオンライン授業という方向性もしっかり位置づけた上で、展開しなければならないということについては、今後、教育委員会と市長部局が連携してやっていきたいと思っています。

また、それに向けて必要な条件整備や基盤整備などについては、市長部局の方でもしっかりやっていくこととしておりますので、よろしくをお願いします。

まさに、こういったことを通して、意欲を持ってチャレンジできる、そういう子供たちを岩見沢の教育が支えていく、あるいは家庭を特に支えていくという面でも重要になると思っていますので、よろしくお願ひいたします。

動画を見ていると、やっぱり使いやすさはiPadを導入して良かったのかなと思いますのと、CiscoのWebexボードについても、かなり高機能なものになりますので、今後も十分に活用していただくような教職員の方のスキルアップに努めていただきたいなと思います。委員の皆さんは、学校視察などで実際に見ていると思いますが、秋山委員いかがですか。

○秋山委員

子供たちと先生とのやりとりに、もっと間があるのかなと思いましたが、それは感じませんし、逆に先生が一括して子供たちの進行具合などを確認できるというのが、すごく良いなという感じを受けています。

○松野市長

そうですね。動画を見ていると、昔、TTとTTのサブとか、色々と議論がありましたが、TTでやるよりもこの方が子供たちも、取り組みやすいのではないのでしょうか。

それから、特に特徴を生かしていただいているなど思ったのが、家庭科の授業で、針先などのポイントの作り方とか、あれを板書と先生の動きだけでは、子供たちはなかなか理解できないでしょうけど、あのように使うと、僕でもできるのではないかなと思います。

特徴というか機能を良く捉えた使い方、大変嬉しいです。いずれ機会を見て、自分自身で学校現場を見てみたいと思っています。

○菊池委員

忘れたときにもう一度自由に振り返ることができるので便利だと思います。

また、自分でやってみて、できなかったときにもう1回活用できるというのが素晴らしいので、子供たちもすごくやりやすいみたいです。

玉止めできない子とかたくさんいましたが、今は動画を見てできるので、すごくいいと思います。

○松野市長

端末は家に自由に持って帰らせていますか？

○三角教育長

基本は学校です。オンラインなどの時には持って帰ることができるようにしています。

○松野市長

なんか教育の概念が変わりますね。

○遠藤委員

体育の授業などを見ていると、跳び箱の授業で、自分の飛び方とかを録画してそれを自分で第三者的に見ることで直していくというのは、今まで出来なかったことですね。

○松野市長

教室の中の授業だけじゃなくて、体育や課外学習にも使っている。先ほど教育長もおっしゃっていましたが、幅が広がりますね。特に体育などは、どこが問題だったのかとか、どこがポイントなのかとか、わかりますよね。

○菊池委員

人に言われるより自分で見た方が、理解が早いのかなと思います。

○杉野委員

動画の中で、栗沢中学校のハードルを使った授業の様子がありましたが、動画で撮影して、それを自分で見て、どこがダメなのか、どうしたらうまく飛べるようになるか自分で考える、そういう使い方をしていましたね。

○松野市長

ここまで進んできて、さらレベルアップしていくには、やはり先生方のスキルアップとアイデア、特にアイデアはかなり重要な要素となるかと思います。

一定のスキルアップをした上で、どんどんアイデアを発揮して授業に活かしていけるようになればいいなと思います。ちょっと認識を変えました。

○松野市長

ところで、学校のネットワークもかなり、専門業者にしっかり見てもらって、かなり強化していると思いますが、スピードも含めて、特に使用時のストレスは無いですか。

○三角教育長

非常に良いと思います。

○松野市長

よく、線だけ繋いでもなかなか機能しないっていう事例が、他の自治体で実際に結構あったりするんで、今後の課題だと思っていました。良かったです。

○杉野委員

学校視察して、よく学校で使われているなという印象を受けます。低学年の子も結構使いこなしています。

○松野市長

小学校の低学年が課題になっているという指摘もありましたけど、そこがスタートラインになると思います。

○杉野委員

今は、自由に使わせて慣れる時期だと思います。これから、その効果的な使い方が重要になりますし、やはり教職員支援をして効果を上げていくことが必要になると思います。

○松野市長

少し雑談になりますが、ちょうど私が市役所に勤め始めたころですが、その頃の市役所の仕事がどのようにやっていたかという、任天堂がファミコンを発売した昭和60年ぐらいの話になりますが、電卓はまだ備品としても無く、個人でソロバンを使っている人がいたぐらいでした。随分と昔の話になりますが、私はそろばんが使えませんでしたので、自分で電卓を買って使っていました。

もちろん、パソコンも当時はまだありませんでした。私は、職員の中で、ワープロを自前で用意して仕事に使っていたのは早い方でしたが、それにしても、昭和60年を過ぎて5年後ぐらいのことだったと思います。それが、今はパソコンやタブレットということになってきており、市役所の中だけでも、仕事の仕方が大きく変わってきています。

申し上げたかったのは、ちょうど昭和60年前後ぐらいにファミコンが発売されて、当時の子供たちにしてみたら、それがもう当たり前前の時代で生きてきており、パソコンとか、IT化とか、そのようなことの感性自体がきっと違っているのだろうなと思っていたので、今回、GIGAスクールでこのようにタブレットを活用した授業展開してもらおうと、この子供たちにとっても、それが当たり前になってくるので、ずいぶん隔世の感があります。

ほんと良い方法でお使いいただいているなと思ったのが正直なところですよ。

○菊池委員

今はもう当たり前前に使っているんで、小学1年生から使うというのがとても大事なことだと思います。

○遠藤委員

家庭ではなかなか教えられないですよ。そのような技術も持っていないので、とてもありがたいなと思います。

○秋山委員

あとは環境整備でしょうか。今、NTTが光ファイバーの線を引いて、各個人宅に行けるように準備しているようですが、やはりそのような環境整備が、しっかりできると大きく違うと思います。

また、これからは、パソコンだけでなくテレビなども、全てWi-Fiのような環境整備で進んで行くのかと思います。電波を飛ばして繋げているという方がとても多いです。

○松野市長

岩見沢は、特に農業分野で活用が進んでいますが、農業や産業分野で活用するときには有線ではなかなか活用しづらいですから、どうしても移動体通信、モバイル電波になりますが、電波のスピードを上げていく、しっかり安定した通信を行うということが課題になります。そのようなことから、地域BWAを全国でもいち早く展開をして、基地局を整備してきました。

岩見沢における最近の光ファイバー網敷設率は、既に95%は超えていると思いますが、若干、BWAの地域が残っていますので、全ての地域にオンラインの光ファイバーの敷設を進めていくということで、実は、情報政策部などの市長部局とNTT東日本で具体的な協議に入っており、しっかり取り組んでいくということで、スタートしています。

家庭での学習だけではなくて、いずれオンライン診療とか、そのような面でも活用していく時代になりますので、そういうところは、先ほど少し基盤整備の部分で、市長部局でしっかり基盤整備していきますということで触れさせていただきましたが、さらに安定的なネットワークを、しっかり確保していこうと思っています。

あとは、実際に家庭でのオンライン授業を行う際の、ノウハウ作りというか、どのような授業展開をしていくのかっていうのは、実践的にやっている学校を参考に、できるだけ早く、その効果を全市的に普及していただきたいと思います。

○三角教育長

今のところ、学級閉鎖があった学校には全て対応しており、また続いたときのための授業スタイルの一つとして提供していけるよう取り組んでいます。

○松野市長

とても面白かったです。

○事務局

次の議題に進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

続きまして、重点項目3「育ちと学びを支える教育環境の充実」の施策8番目「学校の適正配置」といたしまして、「北村・栗沢地域における小中一貫教育の導入と今後の方向性」について議題とさせていただきます。

三角教育長、よろしくお願いいたします。

○三角教育長

北村・栗沢地域における小中一貫教育の導入と今後の方向性についてですが、まずは8ページ、これまでの経過については記載の通りとなります。

小中一貫教育により期待する効果につきましては、義務教育の9年間を、学校の切れ目、あるいは学年の輪切りをなくして、子供達の学力の形成に向けて授業学習スタイルそして子供理解や学級集団づくりを円滑にするという効果を期待しています。

また、小学校高学年から、教員の専門性を生かした教科担任制や、中学校教員による乗り入れ授業を実施し、中学校に繋がる小学校の学力の向上を目指したいと考えています。

すでに実践している学校の効果として挙げられているのは、小中学校の教員が顔を見せ合い、双方向で授業作りに参加することで、子供理解が深まり、困り感のある子供や特別支援の接続が円滑になり、中1ギャップの解消が期待できる、あるいは教員間の交流や研

修を通して、教員の小中学校のギャップをなくし、9年間を見据えた系統的な授業の展開、発達段階に応じた指導の向上を期待できるというものが挙げられています。

また、本市における中学校のコミュニティエリア構想と、小中一貫型の学校が連動しやすいのではないかと考えています。

一方で、デメリットとしては、人間関係の固定化が多く挙げられていますが、元々、小学校から中学校に上がる段階で人間関係の固定化がされているところであり、むしろ、小中学校の垣根を越えた仲間作りが重要になってくると考えています。6年生の活躍の場がなくなるということも言われておりますが、学年区分により、最上級生の活躍の場を作ることが意識されればいかと考えています。

また、導入にあたり、教員の多忙化がデメリットとして多く挙げられていますが、方針や計画の作成、あるいは実施段階までの会議や打ち合わせが多いことから、教員の負担が大きいと言われておりますので、学校任せにせず、教育研究所が関わることで負担軽減を図ることができると考えています。

導入校におきましては、動き始めることで共同体制が整い、共通認識が教員にとって効果的なことを実感すると言われておりますので、そのような動きになればいいと思います。

9ページの今後の方向性につきましては、北村と栗沢を岩見沢市の小中一貫教育のモデル校として先行実施し、さらに、校舎改築を想定する場合、義務教育学校の開設を視野に入れていくことを考えています。両地区の小中一貫学校のスタートは、令和5年度からを想定し、他の中学校7校についても、将来的に全面実施していきたいと考えています。

以上で私からの説明を終わります。

○事務局

それではこちらも松野市長からお話いただきたいと思います。

○松野市長

人口が減ることにより、一番大きく減る年齢層は、児童生徒の年齢層です。岩見沢市は移住定住施策により、例えば、13歳から14歳ぐらいの中学校の年代の子供たちは、親の世代の転入と合わせて、一定の減少を抑え込んでいるという状況にありますが、それでも、やはり減ってくるということがあるので、その時に岩見沢市のまちづくりとして、いくつかの拠点地域エリアというものがあると考えています。

これは、議会でもお答えしたことですが、子供達の数が減ってきているからといって、例えば、幌向地区ですとか、北村とか栗沢から小学校や中学校が無くなるということは、地域にとって、非常にデメリットも多いだろうという認識が私自身にもあり、まちづくりの拠点として位置づけているところについては、都市計画上もそうですが、安心して通学できる範囲内に、学校が存在する必要があると考えています。

ただ、小学校や中学校だけの単体ですと、どうしても小規模化が進み、デメリットが大きくなってきますので、そこで、小中一貫教育ということを教育委員会で色々検討いただいております。そこをしっかりと定着させていくこととなりますが、要は、簡単に言うと、北村と栗沢から学校を無くさないということです。

確かに、最近では近隣の自治体を見ても、一つの自治体に一校ずつの小中学校ということで、かなり統廃合が進んでいます。今でも基本的には変わらないかもしれませんが、かつては、道内の義務教育の8割ぐらい、過疎校規模の学校が多かったのが、大分集約されてきていると思います。

それはそれでメリットもあったと思いますが、学力の面ではデメリットも大きかったということもありますので、特に子供の発達に合わせた学力の展開ということで、このような一貫した取り組みは、私自身は良いと思っています。

ただ、他の7校のところも含めて、コミュニティエリアの議論は、慎重に考えていかなければいけないと思いますが、早く実現するとともに、教育環境整備を組み合わせ、岩見沢市の教育をしっかりしていきたいというのが市長部局としての考え方になります。

その際に、障害となる懸念があったのは、学校選択制度というのを見直す時期というのは、私自身も強く思っていましたし、その前には、指定校制度の中の学区割が、現状と一致してないということがあり、長年にわたる制度疲労を起こしていると思っていました。

学校選択制度を導入した当時は、自己実現ということも言いましたが、学校を改革するとか、より子供たちの希望を叶えるといった観点で、一つのカンフル剤みたいなものがあったと思います。

その役目は、十分に果たしたのかなと思いますし、見直すものは見直した上でしっかりと、地域で教育を行っていくことは必要だと思っています。小中一貫教育を行うということについては、色々と付随して解決しなければいけない課題が出てくることも、また事実だと思っています。

○秋山委員

市長がおっしゃられた通りだと思います。特に、北村や栗沢については、岩見沢と合併しましたが、やはり地域差などが出てきています。

人を集めてどこかに集約するということも必要なかもしれませんが、他の自治体などでは、いくつかあった学校が全部一つになったことにより、やはり地域性とか、子供たちの移動に対する不安とかがあったと聞いています。

今回、北村や栗沢はモデル校的な部分がありますが、その地域において、しっかり守っていかなければいけないという思いがありますので、そのような取り組みをやっていき、検証していく時期なのかと思っています。

それが成功すれば、街の中でも出てくるのではないかと思います。

○松野市長

ただ、ある程度の規模の学校を維持していくということが必要になってきますので、そのような意味では、子供たちにとって、どのような教育環境がいいのかという観点で今後も色々と見直してはならないところは出てくるとは思いますが、先ほど申し上げた北村と栗沢地域については、当面はしっかりと維持していくと、そのためにどういう教育を提供するのか、そのためにはどのような形がいいのかを色々と考えたら、やはり小中一貫教育という展開が合っていると私自身は思っています。

○菊池委員

栗沢については、認定こども園が出来たことで、街の中がすごく活気づいたのは確かです。子供の姿もいっぱい見るようになりましたし、それが今、小中一貫教育になる準備をしていて、運動会などを一緒にやったりすることで、先生方の意識も変わってきており、来年、再来年でまた変わってくるのかなと思います。

以前、6年生が中学1年生を怖いという話をしていました。前年まで一緒の学校で勉強していて、普通に話をしていたのに、中学1年生になった途端に、怖いということをやっていたので、どうしてなのだろうと思っていましたが、授業や活動を小中一貫で一緒にやることが多くなったことによって、少しずつ子供たちの意識も変わってきたと思います。

また、中学校に行ったら先生が怖いのでしょうか？と、子供たちに聞かれて、怖くないけど、どうしてそう思うのかなと思っていましたが、それが今は、中学校の先生が小学校に乗り入れて授業しているので、中学校の先生の顔が見えたことで、そういう不安も少なくなったみたいです。

子供たちが、とても中学校に行くのが楽しみの一つになってきているので、そこが今までと大きく変わったかなと思っています。

○松野市長

小学校と中学校の先生って、何かちょっと違う感じがしますね。

○菊池委員

今は交流が多いことで全然違う感じになりまして、相談し合える感じになっていて、すごく変わっていると思います。

○松野市長

教科担任制の方はどうなっていますか。

○三角教育長

先行してやっている学校もあります。英語だけみたいに、出来るところは進んで取り組んでいます。もちろん北村や栗沢もやっています。

○松野市長

いずれ小学校の免許も教科制になる方向性が出ていたと思います。そのような意味では、同じ義務教育の中で、小学校と中学校で教科一つとっても違うという教育制度自体が、中1ギャップに繋がる要因があるのかもしれない。

先生方が、お互いに乗り入れするっていうのは、大きいと思います。人事でも小学校中学校で行き来するというのも当然必要だと思います。

○菊池委員

中学校の先生が、小学校の先生のことを、あのようにならされるのはすごいと言っていました。乗り入れ授業をしたり、互いに授業の公開をしたりするのが多くなっているので、それがすごく変わったなと思います。

○松野市長

私の肌感ですが、例えば高校の先生だったら、中学校は何やっているのだって言うし、中学の先生は、小学校は何やっているのだからという、そんな傾向もあったのかなという認識がありました。

○菊池委員

意識がすごく変わってきているということですね。

○松野市長

それが一番大きいですよ。学校選択制でも先生方の意識は大きく変わったという側面はありましたが、今の説明などを聞いていますと、小中一貫の方が、より子供たちにとってメリットがあると感じます。

○菊池委員

今は建物が別なので、行ったり来たりする時間調整が大変だと言っていましたので、そこが上手くできれば、もう少し良いのかなと思います。

○松野市長

色々課題はありますね。

○杉野委員

小中一貫教育の期待する効果というのはすごく大きいと思います。

一方で、当然デメリットがあると思いますが、それを先ほど教育長のお話したように、色々な工夫で乗り越えていけるのかなと思います。岩見沢市の場合、この数年間、小中連携教育というのを進めてきていて、学力向上や生徒指導について先生方の情報交流なども行われています。また、子供たちやPTAの人同士の交流なども進めながら、情報連携みたいなことが図られてきていて、小中一貫教育の下地ができていると思っています。

ぜひモデル地区として北村小中、それから栗沢小中の方で、うまく進めてもらいたいなと思います。どちらも地域が非常に安定していて、協力がすごく得やすい地域だと思いますので、これをうまく捉えて、特に栗沢においては、先ほど話もありましたが、認定こども園もありますので、小中一体となって子供を見守っていただけるのではないかと思います。

○松野市長

ただ、教育委員会としては、市内全域を広く見ていかなければならず、現実にある学校間の格差っていうのは、やはり現実としてありますので、それをどう解消するのかといった観点も含めて、色々教育委員の皆さんとも議論して、そのような方向性を出して取り組んでいただきたいと思っています。

○三角教育長

学力格差を是正する方向の一つとして、小中一貫して教育をすることで、小学校の学力が下がっている地域は、中学校で引き上げていくという、建物とかシステムではなく、教育内容を一貫してすることによって、小学校の学力を引き上げていくという方向に持ってきています。

○松野市長

今までの岩見沢の傾向を見ると、教育長がおっしゃったように、小学校では低いけど、中学校で引き上げているという学校が割と多かったと思います。

ですから、学力格差ではありませんが、学力を上げるためには、まず小学校からという考え方もありますし、中学校をまず上げてから、並行してという考えた方もあるかと思います。岩見沢の場合は、どちらかという、中学校の方が全国平均の少し上ですから。

小学校でなかなかそこまでいかなかったという課題がありましたが、色々解決に取り組んでいただき、それぞれレベルアップしていただいているので、より教育としてのレベルアップといえますか、色々意欲を持ってチャレンジしたいと思ってもらえるような子供さんが増えていくことが、一番重要だと思いますし、そういった意味で、より一層頑張ってもらいたいなと思います。

○三角教育長

一方で、中学校では、生徒の能力を高める授業にするという点、小学校の授業では、先ほどの話も参考になると思います。そして、中学校でも学力が落ちている学校をそれらで引き上げていくという相乗効果を期待しています。

○松野市長

その結果を求めていきたいと思っています。

○事務局

それでは次の議題に移らせていただいでよろしいでしょうか。

次の議題も重点項目3「育ちと学びを支える教育環境の充実」に関連いたしまして、施策9「安全・安心・快適な教育環境の確保」ということで、「学校における新型コロナウイルス感染対策の状況」について、同様に進めさせていただきたいと思います。それでは三角教育長、よろしくお願いいたします。

○三角教育長

それではお願いします。まず学校におけるコロナ対策につきましては、10ページになります。まずは、子供の学びを止めないこと、それから学校でクラスターを発生させないこと、そして、教職員から広げないことを共通にして、対策を徹底してきたところです。

マスク着用や手洗い消毒、換気、3密の回避、さらには家族を含めた健康観察と風邪症状があれば登校を控えるといった、家庭との連携を基本にしていますとともに、教職員勢もより慎重に対応をしてきたところです。

感染状況に応じて感染リスクの高い教育活動は控えていくということで、その都度校長会議等で通達していたところです。また、給食での黙食、グループ活動では距離を取る、集団での行事や活動で感染リスクを低減する配慮を行うことを行っております。

サポート人材としては、授業を補助する学習指導員から消毒や校務を補助するスクールサポートスタッフをそれぞれの学校に配置しております。修学旅行につきましては、今年度で実施予定の中で、メープル小を除いて、20校が既に実施済みで、中学校の残り2校は、今週28日、31日に出発する予定となっております。

また学級閉鎖時には、タブレットを活用した朝活動、それからオンライン授業を全ての学校で実施しております。それ以外には、家庭と連携してオンライン授業や授業動画の配信を活用するほか、必要に応じて紙による課題学習にも取り組んでおります。以上です。

○事務局

ありがとうございました。それでは松野市長からお願いいたします。

○松野市長

感染症対策については、どの学校においても大変気を使っていただいで、より徹底して慎重に行っていただいでいます。おかげさまで、岩見沢市内で学校でのクラスターというのは発生をしておりませんし、感染なされた児童生徒さんもいらっしゃいますが、それは全て学校での感染ではありませんので、そのような意味では、本当にしっかり取り組んでいただいでいると思っています。

今後も、新型コロナウイルス感染症というのは、少し市政方針の中でも考えておりますが、基本はやはりウィズコロナだと思っています。ウィズコロナであって、ポストコロナみたいなところもあります。

ウィズ・ポストコロナ、その中で、岩見沢市のまちづくり、あるいは教育をどうしていくのかということ、今後、新型コロナ感染症がどのような扱いになってくるか分かりませんが、必ず必要になってきますので、そのような中で、子供たちのためにというのが一番の目的であり、目標でもあります。感染対策に今後とも十分留意して、教育活動していただきたいと思います。

幸いなことに、色々な特別教育活動の中で、修学旅行なども延期が続いて大変だったと思いますが、ちょうど良いタイミングで修学旅行を実施できるという時期を迎えたので、ちょっと一安心しています。修学旅行のキャンセル料金など、色々発生していると思いますが、そこは市長部局でもしっかりサポートさせていただいております。

来年には、第6波っていう話も無いわけではありません。今、岩見沢市内のワクチンの接種状況は全市民に対して、国と同じ2回目接種終了が7割、70%になっています。昨日で確か69.数%と全国を若干上回ったかほぼ同じぐらいで、今日は全国が69.7%で、直近で70%を超えと言われていています。岩見沢市も2回目接種が全市民の70%を超えていますので、一定のワクチン接種状況の中で、教育の展開ということを考えていくのと、今後、3回目の接種をやっていきます。

現段階では、国の方針がまだ明確にはされておりませんが、1回目、2回目と同じ12歳以上を対象として、ワクチンを接種する体制を今組んでいます。おそらく12月中旬からは医療従事者、1回目と2回目は都道府県から医療従事者に対応したのですが、どうやら3回目は市町村が対応することになるだろうと思いますので、12月中旬から医療従事者の3回目接種を実施します。

それから1月に入って、高齢者施設の従事者、8か月も経ってからになりますので、そういう順番で入っていくことになるかと思います。その後に高齢者からということになって、当然12歳以上の児童生徒さんは、1回目2回目の接種時期がまだ遅いですから、それから8ヶ月を経過した時点から3回目の接種に入っていくことで、おおむね来年の7月ぐらいまで接種を続けることにしています。

現在の想定では、各病院・医院での個別接種を中心に、必要によっては集団接種を、特に夜間時間帯とか、あるいは土曜日など、そういったものを組み合わせてやっていこうと思っています。

1回目2回目の接種によって、全国的に死亡者が大きく減り、重症者も大きく減っています。今日の新聞では、北海道全体でも大きく減少しているけど、まだ原因はまだ不明というような記事もありましたが、ただ事実として、感染者数が大きく減っています。

昨日公表された先週1週間の空知全体での感染者は1名、その1名が岩見沢市ということですが、大きく減っているのも事実ですので、より安全安心で、安心感のある環境で教育を展開できるような環境になってきたかなと感じています。

ただ、感染対策は今までと同様、もしくは今まで以上にさらに徹底して気を抜かないというように学校現場ではやっていただきたい。そのような取り組みをすることが、お子さんが家に帰ってからの感染対策にも繋がっていくと思います。

○菊池委員

子供たちは、とてもよく頑張っています。手洗いもマスクも本当にしっかりとマメにやっていますよね。大人よりしっかりやっているといます。

○秋山委員

中学生のワクチン接種が始まって、その後2回目があって、少し寝こんだり、休んだりすることはありますが、特にクラブ活動とかには効果がかなり出てくるのではないかなと思います。

○松野市長

教育委員会でガイドラインみたいなものを出しているのですよね。それに基づいて、各学校で色々工夫しながらしっかり取り組んでいただいているということですね。

○杉野委員

とても一生懸命やってくれています。

○松野市長

どこかの学校でクラスターという報道などを見るとドキッとしますよね。岩見沢市内は高校も含めてしっかり感染対策をしていただいていると思います。

○杉野委員

学校によっては、子供の人数が多い学級は、図書室や音楽室などの広い教室に学級を移して、学習に取り組んでいるっていうところもあります。

○松野市長

施設はそのように有効活用していただきたいですね。

○秋山委員

これから冬でしょうね。今までは窓を開けて空気を入れ替えられたのが、開けられなくなったときに、扇風機とか色々な方法で空気の循環をすることが必要になってきます。

○松野市長

換気対策が重要なことについては変わりありません。昨年のシーズンもしっかりとした換気対策をとっていただいたと思っていますし、ワクチン効果もあって、リスクは多少なりとも抑え込みながら教育活動展開できるかなと思っていますが、更に色々と工夫できるところは、ぜひ、教育委員会の事務局の方でもいろいろ知恵を絞っていただきたいなと思います。

○事務局

次に議事(2)のその他でございしますが、委員の皆様から何かご発言がございましたら賜りたいと存じますが、いかがでしょうか。

○森田室長

よろしいですか。

本日予定していた議事につきましては、終了いたしました。

4. 閉会

○事務局

以上をもちまして、令和3年度第1回岩見沢市総合教育会議を閉会いたします。
ありがとうございました。